

美術館ニュース

no. 204
2026 4/1

設備更新工事について 年明けから解体・撤去工事が進行中

当館は設備更新工事のため、昨年12月17日から約9か月を予定する長期休館に入り、展示作品の撤収や収蔵作品の移動を経て、年明けから本格的に工事が始まりました。

空調設備では収蔵庫棟、現代美術棟の空調を停止し、更新する熱源・空調機器、配管の撤去が進められました。

給排水・衛生設備では、上下水を止め、来客用・職員用ト



【写真1】講堂内の壁の解体

イレ内の衛生設備の撤去や、配管を更新するための床の掘削、壁・天井の解体が各所で行われました[写真1]。職員にとっては給湯室やトイレが使えないなど主に水回りで制約の多い環境ですが、仮設の設備を使ったり隣の県立歴史博物館の施設をお借りしたりしながら、休館中も館内で業務を続けています。

当館の工事中も群馬の森公園や歴史博物館は通常通りご利用いただけますが、美術館・博物館の建物裏を通る園路は安全確保のため通行止めとなっています。ご不便をおかけしますがご了承ください。

2025-26年 群馬県立近代美術館設備更新工事② 空調設備(収蔵庫棟・現代美術棟)更新工事

当館の建物は、本館(1974年竣工)、収蔵庫棟(1991年竣工)、現代美術棟(1997年竣工)に大きく分かれています。このうち本館の空調設備については2021年から22年にかけて更新工事を終えています。今回はそれに続く第二期工事として、収蔵庫棟、現代美術棟の空調設備更新を行います。収蔵庫棟は2016年に空調機の更新を行って以来、現代美術棟は竣工以来の大規模更新工事となります。

美術館の展示室、収蔵庫などでは、室内の温・湿度を繊細に管理して作品の劣化を防ぐ必要があるため、熱源機器で作った冷水・温水を空調機に同時に供給して空調を行っています。当館の収蔵庫棟、現代美術棟はそれぞれ専用の熱源機を持っていましたが、今回、同時に更新工事を行うにあたり、両棟が一つの熱源ユニットを共有する形で更新することになりました。6台の熱源機が連携し必要に応じて冷水・温水を作り出す、効率的なシステムになります。こ



【写真2】搬出される熱源機器

のシステムでは、熱源機の一部が故障などにより停止した場合も、他の熱源機が補うことで空調運転が続けられることが一番のメリットとなります。

1月下旬に建物裏の室外機置場に置かれていた収蔵庫棟用1台、現代美術棟用2台の既設熱源機が搬出されました[写真2]。今後、同じ場所に新しい熱源機が据え付けられること

になります。2棟別々だった熱源機が一つのユニットにまとめられるので、省スペースにもなります[写真3]。

現代美術棟では、展示室ごとの空調機と加湿器も更新されます。また、第一期工事では対象外となっていた本館の一部配管もあわせて更新する予定となっています。



【写真3】熱源機器撤去後の室外機置場

空調設備は、20～30年に一度更新する必要があります。今回の工事によって、別々の時期に建てられた当館の主な施設の空調設備が更新されることとなります。このように、当館を含めた県有施設では、建物・設備を維持して長く使い続けるため計画的に改修・更新工事が行われています。今回は空調設備更新に加え衛生設備、荷物用エレベーターの更新も、県有施設長寿命化工事として行われています。

次号では衛生設備更新工事を中心に工事の進捗と概要を説明します。

2026（令和8）年度 開催予定の展覧会

当館は9月中旬まで工事のため休館となりますが、再開後は多彩なラインナップで展覧会を開催していきます。リニューアルした建物とあわせて、どうぞご期待ください。

※工事の進捗状況により会期等が変更になる場合があります。

孤高の彫刻家 村山琴泉

2026年9月19日[土]—11月8日[日]

会場：展示室4・5

観覧料：一般300（240）円、大高生150（120）円

村山琴泉(1885-1967)は、明治から昭和を生きた前橋出身の彫刻家です。1900年に上京して牙彫家の金田兼次郎のもとで学び頭角を現しますが、兵役を終え1910年に帰郷した後は木彫に専念し、次第に団体展から遠ざかり独自の道を歩みました。ご遺族の努力によって保存され、地元の熱心なコレクターによって蒐集された作品の数々から、孤高の彫刻家と称される村山琴泉の作品を美術館で初めて取り上げます。



村山琴泉《天狗像》
ハラサワコレクション
photo: 毛利聡

ウジェーヌ・ブーダン展 印象派の父一光を求めて

2026年11月28日[土]—2027年1月31日[日]

会場：展示室1

観覧料：一般1,200（960）円、大高生600（480）円

「印象派の先駆者」「印象派の父」と呼ばれる19世紀フランスの画家ウジェーヌ・ブーダン(1824-1898)は、故郷ノルマンディーを拠点に空、海景、牧場の牛などをじかに観察しながらみずみずしい色彩と軽快な筆運びで表現し、若きクロード・モネをはじめとする当時の画家たちに大きな影響を与えました。日本では約30年ぶりの本格的な展覧会となる今回は、人物や建築モチーフなどにも焦点を当てつつ、約100点の作品によりブーダンの魅力を問い直します。



ウジェーヌ・ブーダン
《ヴェネツィア、サン・ジョルジョ・マッジョーレ》
1895年頃 ランス美術館蔵(inv.907.19.28)
C. DEVLEESCHAUWER©

群馬青年ビエンナーレ 50周年記念特別賞 受賞作家展 郭家伶

2027年1月23日[土]—4月4日[日]

会場：展示室3・4・5

観覧料：一般300（240）円、大高生150（120）円

公募による「群馬青年ビエンナーレ50周年記念特別賞」の受賞作家、郭家伶^{かくかれい}による受賞記念展です。郭は1994年中国に生まれ、2022年東京藝術大学大学院を修了、以降東京を拠点に活動を続けています。変形キャンバスを使った絵画作品や、それらを組み合わせたインスタレーションにより文化のギャップやアイデンティティの揺らぎを表現する郭が、当館現代美術棟の巨大なホワイトキューブを使つてどのような作品を展開するか、ご期待ください。



郭家伶《无人餐厅》(人のいないレストラン)
2020年「群馬青年ビエンナーレ2021」入選作品

歌川豊国と歌川派の浮世絵展

—国貞も国芳も、はじめりは豊国—

2027年2月20日[土]—4月4日[日]

会場：展示室1

観覧料：一般1,000（800）円、大高生500（400）円

江戸時代の人々の関心は、私たちがSNSやニュースで追いかける話題と同じであり、浮世絵はそうした「時代」を映すメディアの一つでした。この浮世絵界を圧倒的な人気で独走したのが「歌川派」と呼ばれた絵師集団です。歌川豊国を筆頭に、役者絵の国貞や武者絵の国芳、風景画の広重と、個性豊かな絵師が活躍しました。本展は、稀少な開祖豊春の浮世絵を含めて180点以上を公開し、歌川派の魅力を紹介します。



歌川豊国《七代目市川團十郎の三浦荒男之助》文化10(1813)年中右コレクション

※観覧料の（ ）内は20名以上の団体割引料金です。

※中学生以下、障害者手帳等をお持ちの方とその介護者1名、群馬県民の日（10/28）に観覧される方は無料です。

休館中、「出張ミニワークショップ」を開催します

今年の9月頃まで設備更新工事により休館している間、当館の教育普及事業を館外で体験していただける事業を実施いたします。前回の館ニュース(No. 203)で紹介した鑑賞体験を行う「出張授業」に加え、これまでの「こども+おとな+夏の美術館」や「美術館アートまつり」で行ってきたミニワークショップを公民館、児童館、幼稚園・保育園、高齢者施設など希望する施設で実施します。

【実施期間】2026年5月～8月 ※原則、火曜日～土曜日に実施

【対象】群馬県内の公民館、児童館、幼稚園・保育園、高齢者施設、学校など各施設 会期中1回、15か所程度までを受付予定 ※個人でのお申し込みはできません。

【開催時間】10時～16時 所要時間60～120分
(人数・内容により相談)

【参加人数】最少催行人数10人以上

【費用】ワークショップ材料費も含め全て無料

【派遣スタッフ】美術館職員、美術館登録ボランティア

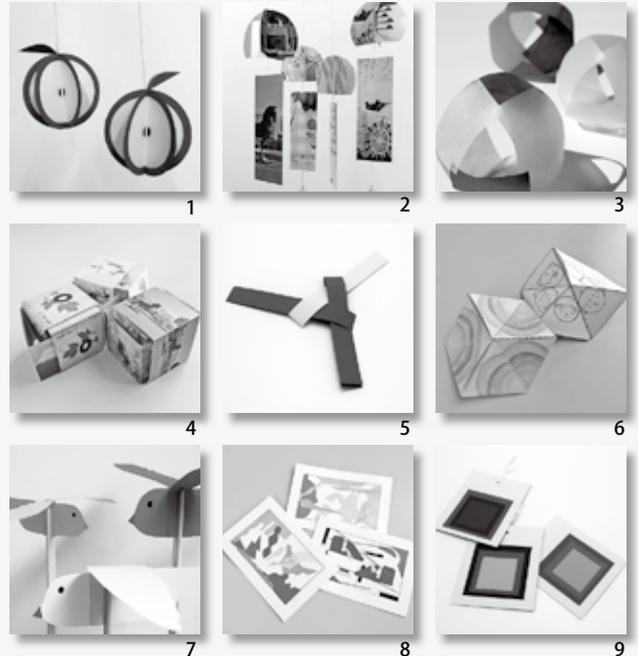
【申込期間】3月24日(火)～7月28日(火)

※開催希望日の1か月前までにお申し込みください。

【申込方法】申込期間内にLoGoフォームからお申し込みください。

※詳細は、案内チラシやホームページをご覧ください。

申し込み QR コード
<https://logoform.jp/f/d1f4d>



1. くるくるりんご 2. アートな風鈴 3. ポンポンキューブ 4. 絵合わせキュービックパズル 5. くるくるおりがみ 6. くるりんば 7. ばたばたバード 8. マティスに挑戦! 9. いろ+しかく=しおり

M u s e u m | N e w s

友の会だより

[令和8年度 継続・新規会員募集中]

友の会は、会費や館内ショップの利益を活用し、近代美術館を支援している団体です。会員には県内5つの美術館の観覧料の減免等、様々な特典があります。是非この機会にご入会ください。

■会員の種類と年会費 [有効期間は4/1～翌年3/31]

一般会員 2,500円 / 学生会員 1,000円

家族会員 [同居2人分] 3,500円 [3人以上は1人につき1,000円追加]

個人賛助会員 [一口] 10,000円 / 法人賛助会員 [一口] 20,000円

■観覧料が減免となる美術館

群馬県立近代美術館・群馬県立館林美術館 [両館あわせて年間2回無料、ほか半額]

高崎市美術館・高崎市タワー美術館・高崎市山田かまち美術館 [団体割引相当額]

■主な事業

※展覧会・教育普及事業・広報への支援・協力のほか、講演会やコンサート等を開催。

※会報の発行、ミュージアム・ツアーなど、会員のための事業を実施。



令和7年度秋のミュージアム・ツアー
谷村美術館にて

◆ミュージアムショップより

※展覧会カタログの通信販売を行っております。申込方法など詳しくは美術館HPの 利用案内>ショップ>主要商品>ショップ通信販売 をご確認ください。

Museum :: Shop

お問い合わせ：群馬県立近代美術館 友の会 TEL 027-346-5560 (館代表) / FAX 027-346-4064

室 内で白い布を纏った女性が台に腰掛けている。作品のタイトルが示すとおり、絵画や石膏像、筆立てなどが並ぶ画室(アトリエ)にて、半裸の彼女は絵画モデルとしてポーズをとっているのだろう。室内は背景のガラス窓から差し込むやわらかな光に満ち、左からの強い外光が画面手前を照らす。明るい色彩の細やかなタッチで丹念に描かれた本作は、本県安中市出身の画家湯浅一郎(1868-1931)による代表作のひとつである。

本作は1901年の第6回白馬会展に出品された。白馬会は、湯浅の師である黒田清輝らを中心に1896年に結成された美術団体で、フランスの外光派に学んだ明るい色彩を特徴とし、陰影にも色(主に紫色)を用いることから「紫派」とも呼ばれた。暗褐色を主調とする旧来の洋画に対し、その明るい色彩は洋画界に新たな風を吹かせるが、彼らが描いた西洋風の裸体画は風紀を乱すものとして問題視されてしまう。本作が展覧された第6回白馬会展も警察による検閲の対象となり、展示中に画面の一部が布で覆い隠されるという通称「腰巻事件」が起きた。

本作もその「腰巻」の対象となる憂き目に遭う。本作の女性は、発表された当初、裸体で描かれていたのだった。現在彼女が纏う白い布は1903年の第5回内国勸業博覧会に出品する際に、黒田の助言によって加えられたものであるという。洋画家石井柏亭によると、この加筆によって本作は「製作当時の華麗な色彩を今かなり減じている」(石井柏亭「序文」『湯浅一郎画集』1927年、p.3)らしい。現在では、当時の「華麗な色彩」を想像するしかないが、加筆された布はしなやかに女性の身体に沿い、かえって彼女の身体の線を際立たせているようにも思える。花々の陰になっているとはいえ、豊満な左の乳房も露わなままだ。女性の色香を画面に留めようとする画家の苦心の痕跡がうかがえる。



湯浅一郎《画室》1901-03年、油彩・カンヴァス、159.5×106.5cm

T o p i c s

鑑賞サポートツールを貸し出します！

群 馬県立近代美術館では、所蔵作品の鑑賞をより楽しんでいただける教材を作成しています。

ゲーム感覚で作品に親しめるアートカードや、人気の複製画ポスター、色や形を組み合わせるさまざまな作品づくりができるアートパズルなど、すべて貸出可能です。授業やさまざまな活動に、ぜひご利用ください。

※詳しくは当館ホームページをご覧ください。

※教材は、美術館へ取りに来ていただくか、着払いの宅配便でお送りすることが可能です。

また、当館スタッフが訪問し、アートカードや複製画ポスターを活用しながら、対話を通して鑑賞体験を行う「出張授業」も実施しています。

学校はもちろん、幼稚園・保育園・こども園・放課後児童クラブ・公民館などからのお申し込みも歓迎しております。派遣費用はかかりませんので、どうぞお気軽にお問い合わせください。



ホントのサイズの複製画
実物サイズの複製画で鑑賞してみませんか？その他の鑑賞用サポートツールについて詳しくは当館HPをご覧ください。



昨年度制作:タッチアートカード

※絵画作品を凹凸で表現しています

当館の所蔵作品を、触覚を通して鑑賞できる教材です。実際の作品サイズとは異なり、手で触れて感じ取りやすい大きさと制作しています。見える人も見えない人も、触覚と言葉を使って作品鑑賞ができるツールです。

お問い合わせ：群馬県立近代美術館 教育普及係 TEL 027-346-5560 (館代表) / FAX 027-346-4064

